

アメニティーフォーラム 15 ファイナルトーク

～プラチナプラン(仮称)(障害者版ゴールドプラン)の策定を！～

現在、障がい者制度改革の議論が進められています。障害者自立支援法に代わる、(仮称)障害者総合福祉法の制定を目指して、総合福祉部会も立ち上げられました。

私たち全国地域生活支援ネットワークは、これまでも一貫して障害のある人の、「自らで選んだ地域生活」が実現するよう、活動し、発信してきました。そうした立場から、私たちは、障がい者制度改革議論が目指す「地域生活支援」の方向性に賛同し、その成果に期待するものです。そして、最終的なゴールとして、共生社会の実現、国連の障害者権利条約の批准を目指していくべきと考えます。

しかし、制度改革議論の中でもたびたび指摘されているとおり、現在の日本には、障害のある人が当たり前の地域生活を送るための支援基盤が、圧倒的に不足しています。とても残念なことです。

そこで、今回の「アメニティーフォーラム 15」のファイナルトークでは、障害のある人の地域生活を支える基盤整備を、飛躍的かつ計画的に進めるための「プラチナプラン」(仮称)の策定を提案したいと思います。そうです、かつて高齢者の介護支援基盤を飛躍的に拡大することに成功した、「ゴールドプラン」の再来、障害者版ゴールドプランの提案です。

ただし、「プラチナプラン」は、単に障害福祉サービスの量的拡大だけを目標にするわけではありません。障害のある人の地域生活は、福祉サービスだけでなく、気軽に相談することのできる場、働く場、そして芸術活動やオフタイムを楽しむ場など、さまざまな要素で成り立っています。そして、これらの生活の充実は、子どもの頃から整えていかなければなりません。

一方、障害のある人の地域生活をサポートする支援者側も、非常に疲弊した状態にあります。給与水準が低いレベルにとどまっているため、いわゆる「男性の結婚退職」が珍しくない職場環境となってしまうています。それ以外に、余裕のない人員配置やキャリアデザインが描きにくいなどの状況も、解決すべき課題です。

そこで、「プラチナプラン」では、アメニティーフォーラム 15 へご来場の皆さまからの数多くのご意見をいただきながら、障害福祉サービスの量的拡大はもちろんのこと、

生活のうるおい(文化やスポーツなど)に関する項目や、支援人材の確保(支援者の給与水準など)に関する項目なども盛り込みました。

会場の皆さまからは、街なかに「たまり場」を作ろう、ヘルパーが運転する車両での移動支援を実現しよう、医療ケアを必要とする人が福祉サービスを利用するときの「医療連携加算」を拡大しよう、通所サービスの送迎を充実させよう、電車やバスなどの運賃割引を拡充しよう・などのご意見をいただきましたが、一方で、特別支援学校や入所施設、あるいは福祉的就労のあり方に関しては、廃止を求める意見、存続を求める意見が混在していました。

このように多様なご意見が寄せられましたが、アメニティーフォーラム 15 にお集まりの皆さまが「障害のある人のより良い暮らし」を心から願っていることは間違いのないことだと思います。そして、そうした思いが寄り集まった「プラチナプラン」でありたいと思います。

そんな「プラチナプラン」の主な項目は、次のとおりです。

- 「障害があっても地域で暮らせる支援体制の確立」として、
 - ・ グループホームやケアホーム、相談支援や日中活動基盤などの基盤整備
 - ・ 働く場の整備、就労支援の充実強化
 - ・ 当事者活動の充実
 - ・ 支援者の勤務環境の大幅な改善
- 「ノーマライゼーションは子どもから」として、
 - ・ 児童福祉法を中心とする支援体制
 - ・ よりインクルーシブな教育の実現
 - ・ 放課後や長期休暇支援の拡充
- 「これからは地方の時代」として、
 - ・ 地域生活支援事業や自立支援協議会の拡充
 - ・ 地方議会の活性化
- 「障害者の表現が社会を拓く」として、
 - ・ アール・ブリュット文化の普及・定着
- 「障害があってもなくても娯楽を共有」として、
 - ・ バリアフリー映画を軸とした社会参加

○ 「やっぱり大切、財源の確保」として、

- ・ 必要な社会保障費の明確化
- ・ 消費税を主要な財源に

それぞれの項目には、取り上げることとした「ねらい」や「目指す数値等の一例」も盛り込みました。もちろん、数値目標についてはデータに基づいた設定数値が必要ですので、真に必要な数値目標については、今後の議論で精査されることを期待したいと思います。

しかしながら、今回私たちが提案したのは、「プラチナプラン」のごく一部に過ぎません。皆さまからも本当にたくさんのご意見をいただき、内容を肉付けすることができましたが、まだまだ不足している部分もあると思います。

つきましては、新しい障害者福祉、ひいては新しい地域づくりを実現するため、より多くの方々に「プラチナプラン」への賛同と参画をお願い申し上げます。

2011年2月6日

アメニティーフォーラム 15 実行委員会
全国地域生活支援ネットワーク

代 表 田中 正博